

## スペインの秘境・テルエルを訪ねる喜び、愉しみ

Teruel, Paraíso escondido

「ミランベル(Mirambel)に着いたわよー！」というメンバーの声に寝ぼけ眼を開けた途端、Tシャツにスカート、ツツカケ履きといういでたちの村娘の姿が飛び込んできた。ミランベルに1軒しかないペンション兼レストランの娘さんで、唯一人の公認ガイドでもあるイサベルちゃんだ。道端の石像にちょこんと座る彼女が、あまりにも「絵になりすぎ」ていて私は一気に和んでしまった。いいなあ、こういうラフな感じ、好きだなあ。

さて、今日最初に訪れるミランベルは人口が150人にも満たない小さな村。高い城壁でぐるりと囲まれているため、その魅力は外側からは分からないのだが、ひとたび門をくぐって中に入ると、そこはまさに「石造りのおとぎの国」。そのステキなことったら！1982年にはあのソフィア王妃から、「中世の面影を完璧に残す美村」として金賞を贈られたというのも納得できる。

イサベルちゃんによると、ここに人が定住したのは



13世紀ごろなんだとか。その頃から残る貴族のお屋敷や民家、教会や修道院、村役場や大塔といった建造物全てが、淡いベージュ色の石でできている。そして、通りという通りはベージュ色の石畳だ。不揃いの自然石をはめ込んだ道や階段は、ゴツゴツしていて歩きにくくはあるが、ロマンチックなことこの上ない。私は大好きだ。それにしても、この村は本当に手入れが行き届いている。

一方、景観を守るための規制も徹底されている。「新しく建物を建てる場合は3階建まで」とか、「1階の部分には暗いトーンの石を使うこと」とか、「一切、電線がない」とか。80年に完了した村の総リフォームで全部地中に埋め込んだらしいが、こんな小さな村でこの意識の先進度はスゴイ。日本なんて大都市から田舎まで、黒く醜い電線が頭上を走っているというのに。

そんなミランベルでは、これまで映画やドラマのロケが数多く行われてきた。また、ピオ・バロハ(Pío

Baroja)の小説「ラ・ベンタ・デ・ミランベル(La venta de Mirambel)」の舞台にもなっている。村のエスクードも、これまたとても可愛らしい。1583年から役所の壁にかかるこの紋章のモチーフは、2つの鏡と大塔。鏡で「ミラル(Mirar=見る)」して、大塔からも「ベール(Ver=見る)」するというように、村の名前は由来しているらしい。

共同の竈(かまど)や洗濯場が今日でも現役で機能していたり、断崖の下をやぎの群れと牧童が横切って行ったりするミランベルを、私は非常に愛しく特別なものと感じた。

次なる目的地は、ラファレス(Ráfales)村にあるプチホテル「モリ・デ・レレウ(Moli de l'Hereu)」。カタリニャ語で「相続された压榨器」という名の付いたこのホテルの中には、オリーブ・オイル博物館(Museo del Aceite)が併設されているという。

山を越え、川を渡り、また山に沿って登って行く。道幅が極端に狭くなり、対向車が来ないかハラハラしていると、突然視界が開けて目の前に瀟洒なホテ



ラファレス村のホテル、モリ・デ・レレウ

ルが現れた。ミランベルから車で北に1時間ほどのところ。

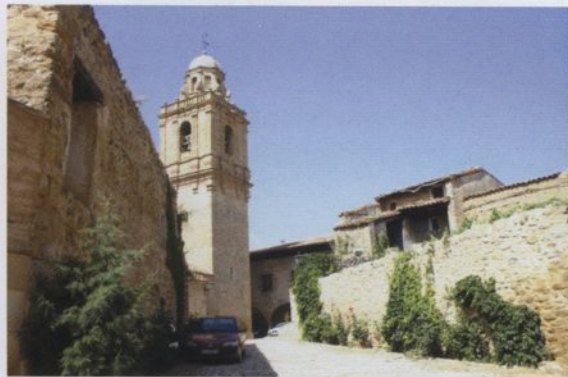
さっそく通してもらったカフェテリアには、大きな旧式のオリーブ压榨器が横たわっている。でもよく見ると、ガラス張りの床の下が昔の貯油タンクだったり、レストランの壁の一部が何世紀も前のものだったりして、「ホテルの中に展示されている」というよりは、昔の製油所跡の趣を生かしながら、「ホテルを建て増した」と言った方がよさそうだ。斬新ですばらしい温故知新ではないか！

しかしながら、特筆すべきはオーナー夫妻のセンスの良さだろう。リフォームのアイデアから、インテリア、食器、ファブリックに至るまで、何もかもがモダンでシックで、大人っぽくて本物で…、テルエルの山中にポツンと建つホテルだとはとても思えない。また、庭や出窓に置かれたプランターからは可憐なお花が溢れていたりするのももかわならず、メルヘンの世界やカントリー風に陥ってないのも、まったくお見事！私は2人の趣味に100点満点を付けさせていただいた。

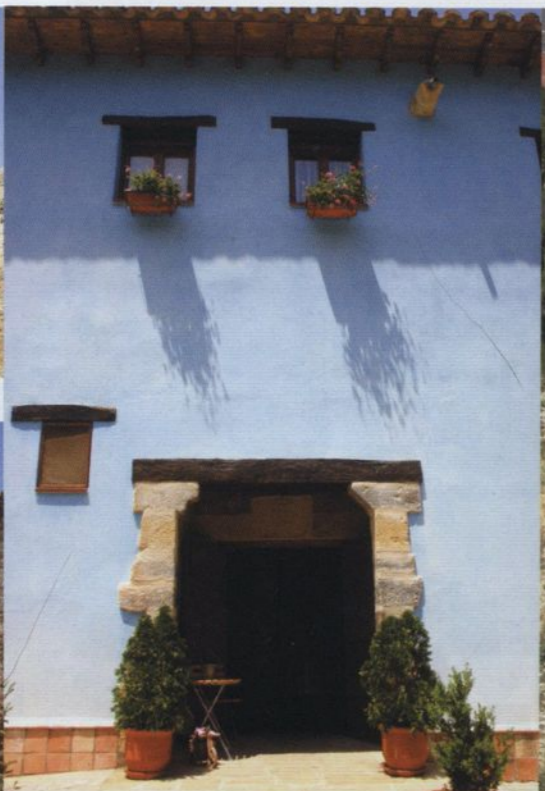
季節の地もの料理に舌鼓を打ち、お土産のハウスワインでももらった私たちは、上機嫌で「スペインのトスカナ地方」と呼ばれるマタラーニャ(Matarraña)郡を



ミランベルのエスクード



ミランベル



東に進む。ものの30分も走ると、次の訪問先バルデロブレス(Valderobres)に到着した。

中世からそこに架かっているというサン・ロケ橋(Puente San Roque)を渡って旧村部に入ると、いきなり上り坂が始まる。この上にあるお城と、サンタ・マリア・ラ・マジョール教会(Iglesia de Santa María la Mayor)に続く道だ。少し行くと道は階段になり、そこに猫が沢山いた。フフフ、微笑ましい光景。

お城は代々のサラゴサ大司教によって、14~15世紀にかけて徐々に建立されたもので、とにかくバカデカイ4階建。17世紀まで人が住んでいたというが、現在は往時の賑わいを偲ぶばかりだ。遠く雪を抱くピレネー山脈を望みながら、当時のカトリック教権力の絶大さに思いを馳せた昼下がりがだった。

珍しい木々や伝説の木が点在するマタラーニャ郡をさらに北上し、本日最後の見学地となるカラセイテ(Calaceite)に向かう。ここは、お隣のタラゴナと県境を接する辺りにある村。初めの2箇所ですでに夏の陽が大きく傾いている。急がなくちゃ！

車を降りて、村1番の見どころ、アスンシオン・バロック教会(La barroca iglesia de la Asunción)まで小走りで行く。ねじりん棒のファサードと、壁一面に施された装飾が圧倒的に美しく、しばし

ボカンと見入ってしまう。はたと我に振り返りシャッターを切ってみたが、道幅が狭いせいでどう頑張っても全景は撮れない。ウーン、残念。

そうこうしていたら、いよいよ薄暗くなってきた。車までの道すがら何枚か写真を撮って、私は後ろ髪を引かれる思いでカラセイテを後にした。

雄大な自然、そこに散在する歴史に彩られた村々…。秘境・テルエルは、奥の深い一玉手箱だ。いつかあなた自身の手で開けてみてほしい。驚きと発見がいっぱい待っているから。

3日目: 松嶋公美/写真: 湯川カナ

注: この記事は前回号のテルエルへの旅の続きです。

### レストラン

MESO OVALO  
Paseo del Ovalo, 2  
44001-Teruel  
mesoval@terra.es

LA TIERRITA  
c/ Francisco Piquer, 6  
44001-Teruel

CASA AMADA  
Fuente Nueva, 10  
44142-La Iglesuela del Cid

### ホテル

HOTEL TORICO PLAZA  
c/ Yagüe de Salas, 5  
44001-Teruel  
mail@bacohoteles.com  
www.bacohoteles.com

HOTEL LOS LEONES  
Pza. Iguel y Gil, 3  
44145-Rubielos de Mora  
hoteles@gudar.com

HOTEL EL CASTILLO  
Pza. del Carmen, 2  
44145-Rubielos de Mora  
www.hotelesdelavilla.com

HOSPEDERIA LA IGLESUELA DEL CID  
Ondevilla, 4  
44142-La Iglesuela del Cid  
hospederiaiglesuela@husa.es

MOLÍ DE L'HEREU HOTEL RESTAURANTE  
Rabanelia, s/n  
44589-Ráfales  
www.molidelhereu.com

LA PARADA DEL COMPTÉ  
Restaurante El Andén  
(旧鉄道駅舎)  
44597-Torre del Compte  
www.hotelparadadelcompte.com

HOSTAL GUIMERÁ  
C/ Pastor, 28.  
44141-Mirambel

### 観光名所

DINÓPOLIS  
Polígono Los Planos, s/n  
44002-Teruel  
comunica@dinopolis.com

PATRONATO PROVINCIAL DE TURISMO  
Pza. San Juan 7. 44001-Teruel  
patronatoturismo@dpteruel.es

FUNDACIÓN-MUSEO SALVADOR VICTORIA  
Hospital, 13  
44145-Rubielos de Mora

CENTRO BUÑUEL DE CALANDA  
Mayor, 48. 44570-Calanda  
info@cbvirtual.com

FUNDACIÓN SANTA MARÍA DE ALBARRACÍN  
Pza. del Palacio s/n  
44100-Albarracín  
fsmalbarra@aragob.es